

国指定重要無形民俗文化財

「玉敷神社神楽」の奉納

国指定重要無形民俗文化財の「玉敷神社神楽」の奉納が公開されます。

「玉敷神社神楽」は、江戸神楽の源流を伝え、様式的な所作を繰り返す点に特徴があります。起源ははっきりしませんが、江戸時代初期には神楽が行われていたようです。

古くは、正能地区(騎西地域)の氏子が父子相伝で継承してきました。現在は、地区内外の有志によって継承されています。

昨年の8月から9月末にかけて、玉敷神社神楽の舞台である「玉敷神社神楽殿」(市指定有形文化財・天保7(1836)年建立)の茅葺き屋根の修復工事が行われました。現在では珍しくなった茅葺き屋根の神楽殿を「玉敷神社神楽」とともにぜひご覧ください。

(修復の様子は「加須インターネット博物館」<http://www.kazo-dmuseum.jp>にて掲載しています)

- 1 開催日時 12月1日(日) 午後1時30分頃から午後3時頃まで
- 2 開催場所 玉敷神社神楽殿 (加須市騎西552)
- 3 主催 玉敷神社神楽保存会
- 4 内容 演目 「イザナギ・イザナミの連れ舞」
「戸隠明神の舞」
「恵比寿の舞」など6～8座
※都合により、演目の変更、増減があります。



公開の様子



修復後の神楽殿